

なぜ老後資金には、自助努力が必要なのでしょう

なぜ日本の老後資金には、国民の自助努力が必要なのでしょう

日本の国は「**少子化**」が進んでいます

- ↓ 日本では、新しく生まれる子どもの数が減っています。
- ↓ それは、20年後、30年後の日本の生産人口(労働人口)の減少を意味します。
- ↓ 日本の国の将来を担う人の数が減っているのです。

将来の生産人口(労働人口)の減少は、現在の現役世代にとって深刻な問題です

- ↓ 国の医療保険制度や年金制度は、働く人たちの納める掛金や税金などで成り立っています。
- ↓ 生産人口(労働人口)が減ると、集まる資金(掛金や税金)が減ります。

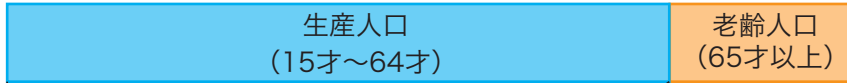
その上、日本は「**高齢化**」が進んでいますから、年金受給者の割合は増えていきます

国の年金は終身年金ですから、平均寿命が1才上がれば、それだけ多くの年金が必要です。これからの日本は、より多くの資金が必要になるのに、集まる資金は減っていく状況なのです。この状況は、年金制度だけでなく、医療保険制度も同様です。掛金を取める人が減っていき、使う人が増えていくのが「少子・高齢化」社会なのです。

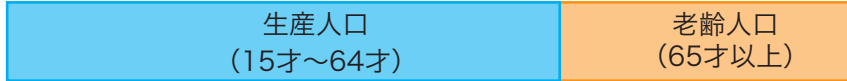
集まるお金



2000年



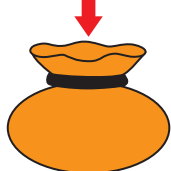
2025年



「少子化」
の影響で
減ります

生産人口が減って高齢人口の割合が高くなる頃に老後を迎える人たちは、「自助努力」(自分で準備すること)が必要なのです。

必要なお金



「高齢化」
の影響で
増えます

あなたが定年を迎える頃は、どんな社会(人口構成)になっていますか？

老後のための自助努力に生命保険を活用しましょう